

お伽座第65回公演

おもしろ怖い 落語芝居

演目・幽霊の泣 ・コ〜ラへ〜夕猫 ・もう半分 《脚本・演出》
(はみだむ紙芝居) 関本三芳

2017

8月

9月

☆20日(日)14:00 ☆3日(日)14:00

☆27日(日)14:00 ★9日(土)18:00

※開場は開演の30分前 ☆10日(日)14:00

《出演》

カオル
岩本あちやこ
高橋るり
安田喜貴
大久保琢弥



イラスト：カオル
彩色：タク

料金 大人 2500円
中学生以下 1500円
(当日300円増)

会場：劇団お伽座
〒369-1224 埼玉県大里郡寄居町鉢形248-4
ご予約・お問い合わせ 048-581-7449

上演にあたって 脚本・演出 関本三芳

今回は落語の怪談噺と、寄居に伝わる怖い昔話を紙芝居にしてお届けいたします。怪談と申ししても、ただ怖いをお話をするのではなく『おもしろ怖い』と題しまして、お客様に大笑いもして頂きます。怖い話、ゾッとするような怪談噺の名作は、多くは江戸時代に作られたようです。当時は夏の盛りになると、芝居小屋は大変暑くなり、どうしてもお客様の入りが悪くなってしまふ。なんとかお客を呼べる演目はないものだろうかとか

小屋主が作者の鶴谷南北に頼み込みました。南北はあれこれ考え、『そうだが背筋が寒くなるような怖い話を作ろう。そうすれば、暑さを忘れ芝居を観るに違いない』これがあの有名な『四谷怪談』の生まれるキッカケになったそうです。

鶴谷南北は主人公の伊右衛門を、浅野家の浪人に仕立て上げ女房のお岩さんを亡き者にした後、浅野家を裏切り、仇である吉良家の家臣の孫娘と再婚するという設定にし、当時評判の高かった仮名手本忠臣蔵を噺の筋に巧みに取り入れました。それから実際は没落していた伊右衛門家の再興に尽力を尽くし、伊右衛門と仲睦まじく暮らしていた、良妻のお岩さんを、あの恐ろしいキャラクターに仕立て上げてしまったのです。それがすっかり観客の心を捉え人々は暑さも忘れ、芝居に見入りました。

芝居は大当たりしたのですが、後にお岩さんの子孫が『事実と反する』と抗議したそうです。しかし、人々に評判のあの恐ろしいキャラクターのイメージを変えることは出来ず、今日に至ってしまったそうです。この事の方を、お岩さんはうらめしやうと思ってるかもしれない。鶴谷南北はあることを無い様に、無いことをある様に織り交ぜながら、お話を作り上げ、それが名作となりました。良妻だったお岩さんには大変迷惑をかけてしまいました。あることが無い、無いことがあると何らかの理由があつて表現する事は、それで利益を得る人はいいいのですが、その陰でもがき苦しんでいる人を生み出してしまふかもしれません。

この事は演劇を創っている我々も肝に銘じなければなりません。お客様に暑い盛りにお越しいただく事は、昔も今も大変な事です。どうぞお伽座のおもしろ怖い落語芝居を覗いていただき、この猛暑を乗り越えて下さい。



会場 劇団お伽座



〒369-1224

埼玉県大里郡寄居町大字鉢形248-4

TEL : 048-581-7449

東武東上線「鉢形駅」徒歩5分

関越自動車道花園インター下車

国道140号線玉淀大橋を小川方面に左折

254号線沿いセブンイレブン横入る

劇団お伽座ホームページ <http://otogiza.web.fc2.com>